

令和4年度第1回中頓別町総合教育会議会議録

開催日時 令和4年11月30日（水） 14時30分～15時40分
開催場所 中頓別町民センター レク室
出席者 小林町長、遠藤副町長、相座教育長、石井職務代理者、小倉委員、宮崎校長、野村教頭、小林校長、森本教頭、小林教育次長、後藤主幹、炭谷主事

1. 開 会

【教育次長】

教育委員会議に引き続き、令和4年度第1回中頓別町総合教育会議を始めさせていただきます。

【町長挨拶】

令和4年度総合教育会議ですけれども、議題の中でもありました町民センター改修を含めた「人生100年の学びの拠点」という義務教育学校の新しい学びの形を中頓別らしく作っていければという思いでいます。ハードも大事ですが、その中で子どもから町民まで教育・学びを町全体の取り組みとしてより大きく軸を移していくような状況だと思っています。ぜひ皆様と忌憚のない意見交換ができればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

・会議録署名委員の指名

教育長より石井職務代理・小倉委員を指名

2. 議 事

【教育次長】

議事に入る前に本日お配りしています資料の確認をお願いいたします。「新しい学校づくりに関する意見聴取」「町民の意見」「実施スケジュール」こちらの3点になります。それでは議事に入らせていただきます。これからの進行につきましては、相座教育長が行います。よろしくお願いいたします。

【教育長】

それでは、来年度の教育委員会の教育施策（案）について提示したいと思いますので、ご意見がありましたら挙手をお願いいたします。まず、新しい学校づくりについてお話しします。これまでも、ただ中学校を新しくするのではなく、町民と子どもが学びあえる場としての教育施設にしたいと思っています。こども園・小中学校・町民センターが一体化できる立地として、小学校隣接地として、新しい学校を作るということで進めております。新しい学校の内容について、「町民の意見」をご参照ください。昨年度は、ヒアリング・町民ワークショップ・教職員ワークショップ・保護者アンケ

ート・あったらいいな展・中学生ワークショップというような意見を頂戴する場を設定してきています。今年度につきましては、中頓別学園設置協議会・町民ワークショップ・教職員ワークショップをやってきています。それぞれで出た意見が「町民の意見」にまとめられています。その内容につきましては、こちらの「新しい学校づくりに関する意見聴取」の8ページをご覧ください。子どもたちや町民・先生方から出た意見を集約して、そこで大きくウェイトを占めていた意見を大きく強調して書いています。まず一つは、「好きなことがある」ということで子どもたちが好きなことに向かって勉強できるような学校、興味や関心が追及できるような学校の共通点と思っております。「健康で体力がある」子どもたち、スポーツも勉強も頑張れるということが中心となっていると思います。保護者からは「礼儀正しい」が出ておりますが、子どもたちから意見を聞くと、子どもたちで「中頓別小学校は仲が良いと言っており、とても良いなと思いました。「友達が優しい」と言っており、すごく朗らかで良い人間関係ができていると実感しております。子どもたちはその関係を持続させるように言っておりました。ここの中では提示されておりましたが、アンケートや子どもたちの意見の中で、「自然の中で学べる・自然のことを勉強できる」にとっても関心がありました。意見について、細かいところは後ほどご覧になっていただければと思います。

次に、校舎の構造について、先ほどの教育定例会議でもお話ししましたけれども、校舎を町民センターと繋げるという意味では、セキュリティの部分が問題となります。普通教室につきましては学校管理、特別教室・体育館施設につきましては教育委員会管理というようにすみ分けができないかと考えている。こちらは、この後の設計業者の考え方の中で変わっていくと思います。学校につきましては、2階以上が学校管理・1階につきましては、教育委員会管理というふうと考えております。一般の人・学校が共用で特別教室を利用する共用空間と考えております。一般の方には、誰でもフリーにするわけではなく、最初の時に利用登録等をお願いし、何らかの形で不審者対策ができるような体制を作っていきます。併せて、町民の需要を図るために、図書館を充実させたいと思っております。町の図書館と学校の図書室を同じ場所に配置して相互で利用できるようにしていきたいと思っております。建設スケジュールにつきましては、今年度は基本計画を作成中です。12月の赤いところをプロポと書いておりますが、12月7日プロポーザルを行い、業者を決定し、建設基本設計を業者にお願いをします。それにつきましては、来年度の9月まで基本設計を作成していただき、それについての意見をいただいて実施設計に入っていただきます。建設実施設計をして、令和6年度8月から令和7年度1月まで建設工事をしていただき、令和8年度4月開校というスケジュールで進めています。小学校・中学校の義務教育学校にこども園をプラスして中頓別学園というスタイルでいこうと思っております。全道的にもこども園か

ら中学校まで一括りの学校はあまりなく、かなり積極的だなと感じております。安平町早来学園が同じような考え方を持って学校を作ろうとしております。12月25日に早来学園の内覧会に行きますので、内容的にも関心を持って見に行きたいと思いません。

【大島園長】

広島県三原学校園に視察をして、とても特徴的だなと思ったのが、教育長からもお話がありました「つながり」というところで言いますと、「教育は人なり」だなと感じました。その「教育は人なり」が何で繋がるかという、やはり教育課程に繋がると思っております。そこがないと、視察したところの課題として言われていたことが、「校舎が繋がっていても、校舎が離れていてもどんな教育活動が行われるかについては、きちんとした計画を積まないとなんか子どもたちを育てるかどうかがバラバラになってしまう」ということを、私は視察の中で感じました。計画の中には、学校が自己完結をしないで地域の皆様とともに人生100年ということで、先ほど町長よりお話がありましたけれど、たかが12年間の校舎ではなく、その後もずっと学び続けられるということ子どもたちも見て取れる、そういう地域との学びを共にする共生社会の縮小版みたいな形でいくべきだなと視察のなかで感じました。そこが課題でもあり目指しているところなんです。もう少し具体的に言うと、「同じ校舎にこども園があるのだけれど、経営の関係もあるのですが、なかなか行ったり来たりじゃない、先生方もそこでどうしたらよいか模索しています。研究も一緒におこなっていますということで、やはり効果があるんです。研究ということは、子どもたちがどのように成長したら良いかということについて学ぶ、それはそこだけではなく外から外に行ったり、外から来てもらったりと、双方向のプラスがある。」ということが大事なんだろうと思います。子どもという中で、高齢の環境も含めて色々変わっているところがありますので、そこも総合的に考えていながら、そこをどう教育課程を作っていくかというところがやはり大事だなと思います。ハードは大体決まってしまう。そこは工程的にどうしようもないところはありますが、中は命をどう吹き込んでいくかというところは大事にしていくべきだなと思います。どうしても新しい学校を作っているとハードのところだけ話がいってしまうが、そうではないところにきちんと私たちも目を向けていくべきですし、大事にしていくところだと思います。

最後に、先ほど中頓別小学校の話がありましたけれど、なかとん塾（4年生以上）の中で、「中頓別の町はどんな町ですか？」という質問をされた場面がありました。その質問に対し子どもたちは、地域のことをきちんと伝えられていました。そこまで知っているんだと感激しました。自分が住んでいる地域は良いところだとわかっています。子どもたちは、今の教育課程に基づきながら学んでいるなと感じました。そこをきちんと継続していくことがすごく大事だなと思いました。これを新しい学校にも取

り入れていければと思います。

【教育長】

義務教育学校を視察したり、いろいろな学校を見せていただいたりしましたが、小中一貫校でやっている取組を聞いたりしたんですけど、内容的に言うと、もう中頓別小中学校は一貫校と同じくらいの取組をしているなど感じました。ある意味一貫校より進んでいるなど思いました。双方とも積極的に交流しようという姿勢がわかります。こども園と学校との繋がりというのかなり先を行っているなど感じました。意欲的・内容的にも誇れる内容だなと感じました。大島園長と視察した広島県三原学校園で、校舎は中頓別町民センターくらい古いです。グラウンドなんかも中頓別小学校の半分くらいしかありませんでした。教育内容で研修の話をしたら、こども園・小学校・中学校それぞれ話をするんですけど、場所によっては3人とも別々の話をしたりすることがよくありますが、三原学校園だけは3人とも一貫したお話をして、それぞれ違う立場で進め方も内容も違うんですけど、一貫性を感じる内容で、それは相当普段からやっているなど感じました。そういうふうに一貫して皆様で子どもを育てるというのを目標にしていきたいと思います。中頓別学園設置協議会の中でも東大の牧野教授がお話されていましたが、まさにゆりかごから墓場までという中の内の学校の充実というお話をしましたけれども、牧野教授からは中頓別はゆりかごになる前の段階からもう始まっているんじゃないですかということ、本当にその通りだなと思いました。そういう福祉と教育が結びついて皆様で温かく子どもを育てていこうという取っ掛かりが今始まったんじゃないかなと思います。なお、昨日に前の副知事にあたる磯田憲一さんと町長がつながりを持っており、「君の椅子」というプレゼントプロジェクトを開始することができました。生まれた赤ちゃんにその年だけのデザインの椅子が手渡されました。技術工場の職人を大事にしようという観点で壊れない椅子なんですけど、万が一壊れた場合にはいつでも修理できますとのことでした。椅子の裏には、通算のナンバーや誕生日、名前まで刻印されていて本当にその子の椅子で、もうすでに取り組んでいるところでは成人式にその椅子を持ってきて一緒に20年間の歩みをそこで確かめるということをやっているところもあります。その椅子とともに学校の歩みも充実していけば良いなど感じました。ちなみにすでに取り組んでいるところで椅子を見ると、子どもによっては落書きだらけだったり傷がいっぱいついていたり、それも全部自分の成長のなかで思い出というか相棒という形で大事に使われているというお話を聞き、中頓別もそんな風になればいいなど思いました。

【町長】

「新しい学校づくりに関する意見聴取」の保護者アンケートを見ますと、すごく中頓別らしさが出ているなど感じていて、子どもたちが好きなことがあって、自己表現・礼儀正しさ・協調性など人間としての成長というところに抱いていける人生100年

間、今の中学生が107歳まで半分は生きていくということを踏まえて新しいことに楽しんで乗り越えていけるという拠点にできればいいなと感じています。もちろん成長して町を離れる子どもたちもいますが、その子どもたちがここで学んだんだということを出してまた訪ねてきて誇りに思ってもらえるような場所になればいいなと思っています。地域の人がある意味 学校とすぐそばにいるということ、学校の先生たちにとって安全管理が不安という話がありましたが、残すものも含めてぜひ多くの人たちの意見を、先生たちがワクワクして子どもたちと一緒に学んでいこうというふうになれば子どもたちも間違いなく成長できるんじゃないかと思っておりました。学びの拠点の中での学校、義務教育学校のあり2～3年間で中身をしっかり作っていったらいい学校になればいいなと感じている。

【教育長】

他の自治体の子どもたちほど夏休みに予備校に行かせたり、少年団の活動で他の管内に出かけたりしています。中頓別ではあまり聞いたことはないのですが、町の人が見守るのを面白がっているのを調査のなかで学力も体力も管内では高いほうで、学校の頑張りが一番なんですけどそこを支えてる町なんだなと実感しました。ダリンさんが英語教室を一般でやっているんですけど、以前は町民センターでやっていて、あまり生徒が固定化して段々下火になっていったのですが、現在は「里芋と蜂蜜」で英語教室（英会話）をしています。月2回やっており、お店が狭いので6人限定とのことです。SNSで次回の募集をかけると6人以上の応募があり、毎回違う方々で枝幸や稚内から来る人もいます。毎回顔ぶれが違うということで、大人のなかでも英語が広がってきているんだなと感じました。内容については、英語でボードゲームなどを行っているそうです。コーヒーなどは出ませんが、とにかくあの場で純粋にゲームをして遊んでいるだけなのですが、すごく楽しいそうです。公的な取り組みを民間から出てくるものが合わさればすごく良いなと思いました。ちなみに、なぜ里芋と蜂蜜でやるようになったかというところ、里芋と蜂蜜の奥さんが「英語をやりたい、でも行けないからここでやってほしい」ということで、ダリンさんも面白そうだと思い始めたのがきっかけだそうです。そしたら、毎回盛況でやって楽しいとお話されていました。そんな動きが学校を中心に広がっていけばいいなと願い、進めていきますので、ぜひ皆様のご意見をいただければと思います。

来年度で宗谷自然学校について、現在産業課に位置図しているんですが、教育委員会に移管したいと思っています。森のこども園・ピンネっ子クラブというこども園と小学生対向きの事業を行っております。こども園・小学生の事業についてはそのまま継続で行う予定です。移管しますが中身は変わりません。この後、町外の宿泊体験等もどうしようかというのを1年間かけて検討していきます。

ハワイ語学研修について、来年こそは行かせてあげたいと思っています。来年度

の高校1・2年生、中学2・3年生の4学年になってしまいますが、7月もしくは8月に研修に行けるように準備を進めていきます。学校の先生方には引率する先生含めでご協力をお願いいたします。ちなみに、これまでのホームステイは長すぎて中学生には苦痛になってしまっていました。ですので、1日短くするなどして対応していきたいと思います。

給食費の全額補助については、この後も続けていきます。

夢と希望の感動体験事業のプロスポーツ観戦はコロナのため休止していましたが、ぜひ生の芸術鑑賞などに活用していただければと思っています。

来年度、道外の義務教育学校視察で福島県の大熊町の学校が新しくなろうとしています。同じくこども園から中学校までの学校になります。こちらの視察に行きたいと思っています。また改めてご案内しますので学校からもご参加していただければと思います。ここは東北大震災で全壊して13年間義務教育がこの町ではできていなかったというところで、学校を建て直してこれを機会に建物だけでなく学校の制度も作り直して再スタートする方向で動いています。

【小林校長】

保護者や町民にアンケートは取りましたけど、やはり教育委員会で考えている推進室で設立に向けてのコンセプト（仮の教育目標）みたいなものを書かれていないと、これもいいあれもいいというふうになってしまうと思います。それを考えると、実施スケジュールのなかには建物の建設のスケジュールが書かれていますけれど、これと並行して教育課程編成の手立てと建設までにどうなっていくのかが見えるようになればいいなと思います。そのなかで、こども園・小中学校が連携していければと思います。堅実に動き出したらいろいろなことがあると思います。まず最初に教育課程を作っていたほうがいいと思います。

もったいないのがハワイ語学研修で、全員対象ではないですね。いろいろな問題があると思いますが、学校教育のほうと中々良いことをやっているけど連動しない。行かなかった子は、そこで置いて行かれる（学力的に）。全員に跳ね返っていくような構成になれば良いが、教育課程を作るうえでダリン先生と小学校の時に英語をやっていたり高学年は現地の人とZoomで繋がったり、そのあと現地に行って初めて会って感動するなど、そういう流れを作られると良いなと思います。

【教育長】

次に2番の「今後の教育施策について」、園庭整備については来年度は遊具を全て撤去してまた新しく園庭として供用活用できるように進めています。ざっくり言いますと、運動会をやっているスペースはそのまま、機関車があるところから向こう側は遊べるスペースというような形になっています。

寿公園の遊具の整理・整備なんですけど、機関車の向こう側にあるジャングルジムや滑り台で一部金属が腐食していて、使用禁止にしています。繋がっている遊具なのでここは大丈夫だけどここは危ないという形になっているんですけど、撤去するなら全部撤去して、新しい遊具を設置したいのですが、まずは学校づくりを先行して進めていきます。学校づくりが終わった時点で、遊具の整備に入りたいと考えております。手前のところは、よく利用されていますが奥のほうは木のアスレチックがありますが、ほとんど手つかずで使われていない状態なのでそこも整備をしたいと考えております。かつてはキャンプ場でかまど等も残っているんですけど、実はそのかまどが草刈りの邪魔になっております。そういうものも整備していきたいと考えております。撤去についても数年間遊具がないのは寂しいので一部分禁止にしながら使っていくしかないと思います。

教育委員会職員の配置について、これも来年度ではなく数年かけて計画してくものですが、図書館司書の配置、あと ALT をもう 1 人配置できないかと考えております。現在は、教育委員会のダリンさんと ALT のマギーさんで授業をしておりますが、ダリンさんともう 2 人の 3 人体制でできないかと考えております。そうすると、もっと英語教育が充実できると考えております。

社会教育主事について、現在は後藤主幹と荒井主事の 2 人体制だが、後藤主幹が今年度で定年を迎えるのでここ数年かけて社会教育主事を増やして充実させていければと考えております。

【町長】

子どもに関して、結婚して妊娠する前の段階からしっかりサポートしていきたいと思います。助産師も 2 人おまして、現在こども家庭庁というものもできていくということで、こども家庭福祉センターを設置していこうというような動きがあります。現在、中頓別ではネウボラという助産師 2 人含めて支援しながら、併せて子どもの発達支援を含めて福祉の対応をそこで試験的にやっっていこうということでまだ中身としては、十分ではないところもありますが、今後はそういったところがさらにソーシャルワークみたいな機能も含めてサポートしていき家庭に寄り添っていければと思っております。そういうところで、地域と学校の切れ目がなく、上手く接続していきながら一人ひとり社会人として成長していく、中頓別には高校がないのでどうしても高校以降つまってしまいますが、総合計画を作ったり、子どものアンケートで浜頓別高校に通う中頓別から通う子どもの居場所がなかった、十分でなかったという意見も見えてきたりもしているので、そういったところも含めて大人になっていくまでのプロセスを丁寧につけていくなかで教育が重なっていくと思います。やりたいことが全てできるわけではありませんが、できる限りやっていきたいと思います。先ほど教育長から今後の教育の体制づくりとありましたれど、課題してあげられていますけどその

ところも充実を図っていければと思っております。町をあげて子どもたちのためにと
いう、そこがより多くの町民に共感を得られるようにしていかなければならないと思
っております。併せて、皆様と共有していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお
願いいたします。

3. その他

なし

4. 閉 会

【教育次長】

本日の総合教育会議はこれで終了いたします。

長時間にわたりお疲れ様でした。ありがとうございました。

会議録署名委員
